

排尿ケアチーム

人の基本的ニーズの一つに排泄があります。高齢になっても排泄はプライベートな事であり、出来る限り自力で排泄を完結したいという思いの方がほとんどです。しかしながら、高齢化に伴い男性、女性共に下部尿路症状を持つ割合が増えて来ることが予測され、身体機能の低下も重なると排泄を自力で完結できなくなる事が懸念されます。また、医療を行う中で膀胱留置カテーテルの挿入を行う事は少なくありません。入院を契機に膀胱留置カテーテル管理となり、適切な評価なしに漫然とカテーテルによる管理を続けてゆく、などの事象も散見されカテーテルの長期留置による感染、カテーテル管理による ADL の低下などの弊害も危惧されます。

これらの問題に対し 2016 年の診療報酬改定により排尿自立指導料が収載され、当院では 2020 年 4 月より「排尿ケアチーム」を発足し多職種による活動を開始いたしました。多職種それぞれの役割は、泌尿器科医は下部尿路機能の評価や治療、セラピストの役割は排泄行動に対しての介入、看護は皮膚・排泄ケア認定看護師が具体的な看護ケアを提案しています。排尿ケアチームの活動目的は、患者様に使用された膀胱留置カテーテルを 1 日でも早く抜去し、尿路感染を防ぐとともに、排尿自立「排尿管理方法は問わず、自力で排尿管理が完結できる」の方向に導く事です。

私たちのチーム活動は、病棟看護師からの情報をもとにケア介入を行っており、患者のケアやブラッドースキャンなどの排尿日誌がとても重要な情報となっています。今後、病棟の看護師や主治医の協力を得ながら情報共有し、1 人でも多くの患者様が最後まで自立して排尿できるよう活動していきます。